

リハビリテーション学科(理学療法学専攻) シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
2年	11	運動学演習
共通	72	実務経験を有する教員の科目一覧

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-10	
		●		●			
科目名	運動学演習				単位認定者	森永 雄	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位
							授業時間数
				授業形態	演習	授業回数	
授業の概要	運動学演習では、「運動学」及び「運動学実習」で身につけた頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動の知識を踏まえ、動作分析のための知識と思考・技術を学修する。臨床現場で観察される基本姿勢・動作を分析するために、分析し、言語・身体表現する能力を身につける。						
到達目標	<p>【実践力】 初歩的な関節運動、バランス、基本動作の仕組みを理解し、言語的かつ身体的に適切に表現することができる。</p> <p>【人間関係力】 メンバーの考えや状況を把握し、課題解決に向けた協動的な支援行動を図ることができる。</p> <p>チームで生じている対立があった場合に、自ら調整するよう働きかけることができる。</p> <p>【生涯学習力】 発表準備を通して、その他の著書や複数の参考文献を調べ読み、効果的に活用することができる。</p> <p>生じている課題や問題点の一部を切り取り、自ら目標設定し、課題克服に向けた取り組みができる。</p>						
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目目標の枠を越え、自身が志す理想の理学療法士像に対応した動作分析力の構築に努めましょう。 ・ 授業後の自己学修を通して、信頼性の高い文献を収集し、読み解く能力を高めましょう。 						
回	授業計画			準備学修			担当
1	筋力・筋機能と筋の基本的事項 【一部、反転学習含む】			LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)			森永 雄
2	筋力・筋機能① (HHDを用いた測定) 【実験、グループワーク】			全体発表とレポートの作成・準備を行うこと (予習復習あわせて30分程度)			森永 雄 小松 佳路
3	筋力・筋機能② (BIODEXを用いた測定) 【実験、グループワーク】						森永 雄 坂上 尚穂
4	発表と筋力・筋機能のまとめ 【学生によるプレゼンテーション、ディベート】						森永 雄 小松 佳路
5	バランス機能とバランスの基本的事項 【一部、反転学習含む】						LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)
6	バランス機能① (重心動揺計を用いた測定) 【実験、グループワーク】			全体発表とレポートの作成・準備を行うこと (予習復習あわせて30分程度)			森永 雄 坂上 尚穂
7	バランス機能② (EMGを用いた測定) 【実験、グループワーク】						森永 雄 小松 佳路
8	発表とバランス機能のまとめ 【学生によるプレゼンテーション、ディベート】						森永 雄 坂上 尚穂
9	基本動作と動作分析のための基本的事項 【一部、反転学習含む】						LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)
10	動作分析① (三次元動作解析装置を用いた測定) 【実験、グループワーク】			全体発表とレポートの作成・準備を行うこと (予習復習あわせて30分程度)			森永 雄 小松 佳路
11	動作分析② (ビデオを用いた測定) 【実験、グループワーク】						森永 雄 坂上 尚穂
12	動作分析③ (グループワーク) 【実験、グループワーク、ディスカッション】						森永 雄 小松 佳路
13	発表と動作分析のまとめ 【学生によるプレゼンテーション、ディベート】						森永 雄 坂上 尚穂
14	運動学のための人体解剖見学実習① 【一部の反転学習含む、フィールドワーク】			LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)			山本 由似 大和田 祐二 森永 雄 小松 佳路
15	運動学のための人体解剖見学実習② 【フィールドワーク】			LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)			山本 由似 大和田 祐二 森永 雄 坂上 尚穂
教科書	『基礎運動学第6版補訂』中村隆一・他、医歯薬出版 * 1年次購入済み						
参考文献	『身体運動学 関節の制御機構と筋機能』市橋則明・他、メディカルビュー ・ LMSに掲載された参考文献、資料						
備考	<p>1~13回A B別2クラス 14~15回A B合同授業</p> <p>【特性】 ICT教育、測定機器を用いた演習、実験形式が中心。</p> <p>【評価】 「授業内課題 (レポート)」は、①筋力・筋機能、②バランス機能、③動作分析、④運動学のための人体解剖の4つのテーマに関する個人レポートが対象であり、予め準備したループリックに則り、採点を行う。後日、LMSのフィードバック機能を用いて、ワンポイントアドバイスを行う。「口頭試問」は、運動学的な基本知識や授業1、5、9回の内容を加味し、試験を行う。「受講態度」は、実験中の学習態度やグループ活動に対する貢献度、発表・聴講態度、授業後のリフレクション、出欠などを採点対象とする。</p>						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

森永雄：動作分析 (分析のための機器利用) に関する長年の臨床経験・研究の経験あり。また、9年間における運動学関連科目 (とりわけ身体運動) の教育経験あり、この経験を基に、講義を担当する。

リハビリテーション学科 理学療法専攻 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
運動学演習	1	森永雄	動作分析（分析のための機器利用）に関する長年の臨床経験・研究の経験あり。また、9年間における運動学関連科目（とりわけ身体運動）の教育経験あり、この経験を基に、講義を担当する。
神経学	2	佐直信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。この経験をもとに講義を担当する。
臨床医学特論	1	荒牧隼浩	当該教科担当者は急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。
整形外科各論	1	佐々木広人	整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。
		小松佳路	複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。
老年学	1	佐直 信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得した。その後、前任地の4年制大学のリハビリテーション学科教授を13年間務めた。この経験をもとに講義を担当する。
リハビリテーション栄養学	1	高泉 佳苗	管理栄養士として病院における栄養管理の実務経験を有する。
救急救命医学	1	伊藤大亮	大学病院にて長年理学療法業務に従事し、十分な臨床実務経験を有する。内部障害チーム所属時はリハ部門内救急救命教育に従事した経験を有する。
骨関節障害理学療法評価学実習	1	佐々木広人	整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。
		小松佳路	複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。
神経障害理学療法評価学実習	1	小関友記	脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。
		森永雄	大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。
臨床理学療法評価学演習	2	佐々木広人	総合病院、訪問リハビリにて長年の臨床経験を有する。
骨関節障害理学療法学	2	原 和彦	一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、骨関節疾患の臨床的な理学療法経験及び臨床実習指導経験を有する。
		佐々木広人	整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。
		小松佳路	複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。
骨関節障害理学療法学演習	2	原 和彦	一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、骨関節疾患の臨床的な理学療法経験及び臨床実習指導経験を有する。
		佐々木広人	整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。
		小松佳路	複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。
神経障害理学療法学	2	小関友記	脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。
		大和田宏美	脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。
		森永雄	大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。
神経障害理学療法学演習	2	大和田宏美	脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。
		小関友記	脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。
		森永雄	大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。
内部障害理学療法学	2	荒牧隼浩	急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており、内部障害系疾患患者の治療経験が豊富である。
内部障害理学療法学演習	2	荒牧隼浩	急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており、内部障害系疾患患者の治療経験が豊富である。
神経筋疾患理学療法学	1	大和田宏美	脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。
		網本和	理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
		坂上尚穂	神経内科の病院に長年勤務し、多くの対象症例の臨床経験を有する。
発達障害理学療法学	1	大橋孝子	発達障害理学療法に関する理学療法に30年以上従事しておりInternational Cartification of Bobath Concept Therapistの資格を有する。
義肢装具学	1	原 和彦	一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、切断の理学療法に関する長年の臨床経験と学会発表などの研究歴、教科書作成などの経験を有している。
		鈴木裕治	当該教科担当者は医療・福祉施設において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。また関連する研修会への参加も行っている。
義肢装具学演習	1	原 和彦	一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、切断の理学療法に関する長年の臨床経験と学会発表などの研究歴、教科書作成などの経験を有している。
		鈴木裕治	当該教科担当者は医療・福祉施設において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。また関連する研修会への参加も行っている。
理学療法学特論	1	坂上尚穂	本教科担当教員は総合病院などで長年勤務し、豊富な臨床経験を有する。
地域理学療法学	1	大橋孝子	障害領域の相談支援に20年以上従事しており、車椅子・座位保持椅子等の作成に多数かかわっており、在宅障がい者の支援の経験が豊富である。
理学療法研究法	1	網本和	大学病院にて20年以上の臨床経験を有し、その間臨床研究について多数の学会発表、論文作成を行ってきた。
地域理学療法学演習	1	森永雄	地域在住高齢者を対象とした臨床経験・研究あり（フレイル、サルコペニア、生活活動量など）。また、PT協会のフレイル対策推進マネージャー、介護予防推進・地域ケア会議推進リーダーの認定あり。この経験を基に、講義を担当する。
保健医療福祉連携論	1	大橋孝子	障害領域の相談支援に20年以上従事しており、多職種との連携の経験が豊富である。
	33	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	